

私はディルイーヤ・アル・タウィラのアル・ファスラ村出身のシャウキ・アリ・モフセン・アル・ジャイフィです。ここが私の家です。私の父と祖母はそこに住んでいて、私たちもそこに住んでいました。私はこの家で生まれました。

シャウキ・アル・ジェイフィは、イエメンの人口の大半が山頂にある村に住んでいるのと同じように、そこに住んでいます。これらの山々の頂上では、水と生活手段を得るのに大変な苦勞をしながら生活しています。

私たちは他の地域と違う水不足に苦しんでいます。アル・ブライカの店までは口バに乗って3時間の距離です。私たちには父親や先祖がいると言われていました。彼らは皆、水に苦しんでいましたが、水と食料、生活手段のすべてを主に女性に頼って多くの仕事をしていました。

女性は家の中だけでなく外でも、家畜の飼料を運んだり、村から道路で遠く離れた谷底や泉から水を運んだりする役割を担っています。原始的な伝統文化を持つ女性が、長い距離と険しい道にもかかわらず、驚くべきバランスで頭の上にそれを載せて運んでいます。

山は人間にとって危険から身を守る最初の避難所です。自然と人間の野心、それが何であろうと、人間と山の関係は長年の挑戦と闘争を通して成長してきました。多くの場合、それぞれの地域でその性質に応じて山は使われており、時には直接人間の生活と結びつくほどで、山自体が住居とされているものもあれば、生活の支えとして時には心の支えととられているものもあります。

遠くから見ると、さまざまな程度の粘土色で描かれた水彩画のように見えます。近づくにつれて、その周囲を囲む石造りの家々など、その細部が明らかになります。

山の頂きは雄大な壁でとなり、シャウク・アル・ジャイフィとその後のアル・ファスラ村への侵入者の危険に対する警戒と警備の場面で使用されています。

今日は、彼は畑へ向かっており、仲間たちは彼に続いて、耕したり穀物を蒔く前に土地を耕す予定です。通常、農家がこれを行います。

シャウキとその仲間が山々のそびえ立つ高さから覚えた
農耕歌や歌を唱えると、山間の村々は壮麗に姿を現します。

壮麗な山間の村々の威厳は、そこに住む人々に忍耐を身につけ
させてきた、遠い昔に遡る生命です。

ここの住民たちは決意、意志の力、そして創造力で自分たちの
生活を築いてきました。

私生活とこの厳しい環境への適応。調和のとれた方法で
家を建てることは、システムを形成する村落建設の基本的な
特徴です。この凝集性は、社会の構成員間の親密さと社会的
調和の程度を示す社会的意義を持っています。

セメントやその他の材料を一切使わずに美しい方法で作られた
ものもあります。